



夏の暑さを更にヒートアップさせた、アツ〜イ！ロンドン五輪が終わって、もう1カ月が過ぎました。日本は38個のメダルを獲得し、第11位でした。今回オリンピック、「チーム力」が際立った気がします。選手が頑張った姿勢は感動させられました、それを支える監督、コーチ、スタッフの皆さん、そして応援するファン！総合力で勝ち取ったメダル！次は2016年リオデジャネイロ(ブラジル)での開催となります。4年後「がんばれニッポン！」

「残暑」まだまだ暑い日が続きますが、9月は台風シーズンです。予期せず襲ってくるゲリラ豪雨！備えは大丈夫ですか？「防災シーズン」店頭にはいろんなグッズが並んでいます、他人事だと思わないで、今一度、我が家のチェックやっておきましょう。「備えあれば憂いなし」です。

## ヒートアイランド現象

ヒートアイランド(heat island=熱の島)現象とは、都市の気温が郊外よりも高くなる現象のことです。都市化の進展に伴って、この現象は顕著になりつつあり、夏季は日中の気温の上昇や熱帯夜の増加によって熱中症等の健康への被害や生活上の不快感を増大させる要因になっています。また、冬季は、植物の開花時期の変化や、感染症を媒介する生物等が越冬可能になるなど、生態系の変化も懸念されています。

原因:①土地利用の影響:主に昼間のヒートアイランド現象の要因となります。都市では、地表面がアスファルト、コンクリート等に覆われ水分が少ないため地表熱から大気への直接的な加熱が大きくなり、気温が上昇します。

②建築物の影響:主に夜間のヒートアイランド現象の要因となります。コンクリート建築物は暖まりにくく、冷えにくい性質があるため、日中に蓄積した熱を夜間に放出する。

③人工排熱の影響:人口が集中する地域の局所的な高温の要因、都市の多様な産業活動や社会活動に伴う熱が排出。

また、アスファルトやビルの壁面は太陽から熱を吸収しやすいため、都市における地表面温度や建築物の表面温度は草地などに比べて顕著に高くなります。

## ECO×モ…「打ち水大作戦！」これってエコ？

クーラーもなかった江戸時代、夏の暑さをしのぐために、庭や道路に水をまく「打ち水」が盛んに行われていたそうです。また水が蒸発するときに、地表面の熱を奪うため周囲の温度が下がるのだ。この古くから日本の暮らしの知恵を市民がみんな復活させ、ヒートアイランド化が進む都市の温度を下げようという試みが「打ち水大作戦」です。2003年は「大江戸打ち水大作戦」が東京4区で実施され、2004年からは全国各地で行われて、その認知度は約50%を超えている。真夏の気温を下げるという効果のほかに、気軽に楽しく参加できることで、環境問題に対する意識啓発、ライフスタイル、伝統文化の見直しの機会になったり、地域からの環境活動を広げていききっかけづくりにもなっています。

準備:水と容器を準備しましょう。お風呂の残り湯、貯めた雨水など！水道水はもったいないので

### 私たちの地球温暖化対策！打ち水効果！

1. 温度が下がり涼しくなります。
2. 水の環境問題に関心を持つことができます。
3. 打ち水の仲間の交流がうまれます。

注意: 通行の邪魔にならないように！

まきすぎないように！

マンホールなどすべりやすいところは避けましょう！

■ヒートアイランド現象のしくみ



みんなであっせいに打ち水して、虹をつくろう。

②打ち水大作戦 

2012/7/22(日)大暑～8/23(木)処暑

